

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和6年11月19日（火）
午前9時25分 開会
午前10時10分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 石田 清
副委員長 須山 泰一
委 員 浅田 徹、西田 真、
福田 嗣久、森垣 康平、
米田 達也
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主事 菅谷祐一
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

交通網問題対策等調査特別委員長 石田 清

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2024 年 11 月 19 日 (火) 9:30～

場 所：第 1 委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

正副委員長 → 各委員 → 当局 → 事務局

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について

【市長公室】 経営企画課

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項（案）

(3) その他

委員会の席次について

5 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委 員】

2024年11月19日現在

職 名	氏 名
委 員 長	石 田 清
副 委 員 長	須 山 泰 一
委 員	浅 田 徹
委 員	西 田 真
委 員	福 田 嗣 久
委 員	森 垣 康 平
委 員	米 田 達 也

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
市長公室長	谷 口 雄 彦	城崎振興局 地域振興課参事	橋 本 郁 夫
経営企画課長	真 狩 直 哉	竹野振興局 地域振興課参事	森 口 佳 徳
都市整備部長	富 森 靖 彦	日高振興局 地域振興課参事	上 野 和 則
建設課長	久 田 渉	出石振興局 地域振興課参事	神 谷 謙 二
建設課参事	堀 田 政 司	但東振興局 地域振興課参事	大 岸 勝 也
都市整備課長	堂 垣 俊 裕		
都市整備課参事	武 中 孝 寛		

12名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局主事	菅 谷 祐 一

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項（案）

2024. 11. 19

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関する事
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関する事

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関する事
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関する事

3 バス交通に関する事項

- 路線バス等公共交通の充実と利用促進に関する事
- スクールバスに関する事

4 鉄道交通に関する事項

- 鉄道交通の維持・存続並びに利用促進に関する事

5 新たな交通サービスに関する事項

- 自家用有償旅客運送等に関する事

午前9時25分開会

○委員長（石田 清） ただいまから交通網問題対策等調査特別委員会を開催いたします。

まず、私、今回の役員改選でこの特別委員会の委員長を務めさせてもらうことになりました石田です。1年間、実のある議論ができますように運営していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、協議に入りますまでに、今回は役員改選後、初めての委員会ですので、ここで出席者の皆さんに自己紹介をいただきたいと思います。

委員長、それから副委員長、委員、市長公室、経営企画課、都市整備部、建設課、都市整備課、各振興局地域振興課の順でお願いいたします。最後に事務局もお願いいたします。

では、まず、改めまして、委員長の石田でございます。よろしくお願いいたします。

○委員（須山 泰一） 副委員長を務めさせていただきます須山です。不慣れな点がありますが、よろしくお願いいたします。

○委員（米田 達也） 委員をさせていただきます米田です。よろしくお願いいたします。

○委員（森垣 康平） 森垣です。よろしくお願いいたします。

○委員（浅田 徹） おはようございます。浅田です。よろしくお願いいたします。

○委員（福田 嗣久） 福田です。よろしくお願いいたします。

○委員（西田 真） おはようございます。委員の西田です。よろしくお願いいたします。

○市長公室長（谷口 雄彦） おはようございます。市長公室長の谷口です。よろしくお願いいたします。

○経営企画課長（真狩 直哉） おはようございます。経営企画課長兼ねて未来共創室長の真狩です。よろしくお願いいたします。

○都市整備部長（富森 靖彦） おはようございます。都市整備部長、富森です。よろしくお願いいたします。

○建設課長（久田 渉） 建設課長の久田です。よ

ろしくお願いいたします。

○建設課参事（堀田 政司） おはようございます。建設課参事、用地対策担当の堀田といいます。よろしくお願いいたします。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） おはようございます。都市整備課長、堂垣です。よろしくお願いいたします。

○都市整備課参事（武中 孝寛） おはようございます。都市整備課参事の武中です。どうぞよろしくお願いいたします。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） おはようございます。城崎振興局地域振興課参事の橋本です。よろしくお願いいたします。

○竹野振興局地域振興課参事（森口 佳徳） おはようございます。竹野振興局地域振興課参事の森口です。よろしくお願いいたします。

○日高振興局地域振興課参事（上野 和則） おはようございます。日高振興局地域振興課参事の上野です。どうぞよろしくお願いいたします。

○出石振興局地域振興課参事（神谷 謙二） おはようございます。出石振興局地域振興課参事の神谷です。どうぞよろしくお願いいたします。

○但東振興局地域振興課参事（大岸 勝也） おはようございます。但東振興局地域振興課、大岸です。よろしくお願いいたします。

○委員長（石田 清） ありがとうございます。（「いやいや、事務局」と呼ぶ者あり）

○事務局主事（菅谷 祐一） 議会事務局総務係主事の菅谷祐一です。よろしくお願いいたします。

○委員長（石田 清） ありがとうございます。それでは、協議に入ります前に、一部連絡をさせていただきます。

委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用し、発言の最初に課名と名字をお願いいたします。

それでは、協議事項に入ります。

まず、委員会所管事項の事務概要についてを議題といたします。

委員の皆さんは、Side Books上のフォルダー、交通網問題対策等調査特別委員会2024年

11月19日の中に配信しております資料をご覧ください。

それでは、経営企画課、建設課、都市整備課の順で説明をお願いいたします。

はい、どうぞ。

○経営企画課長（真狩 直哉） 資料の3ページをご覧ください。市民の移動の在り方検討です。

現状と課題です。公共交通は、不特定多数の人々の乗り合いを前提とするもので、利用の目的の異なる利用者が所定の運賃を支払えば、自由に利用することができるというものです。

しかしながら、人口減少、コロナ禍による行動変容などにより、現状の公共交通手段、交通体系では市民の移動需要を支え切れなくなってきました。分野ごとの個別最適というのも限界に達しており、市として移動というものを大きく捉え、全体最適を図っていかないと市民の移動需要を支え切れなくなり、市民生活へ大きな影響を与えることが懸念されます。

基本方針です。持続可能な市民の移動需要を支えるための方策を庁内で検討します。

概要です。市民の移動の在り方について、庁内での検討会議を開催します。

次に、進捗状況です。市民の移動の在り方について、庁内での検討会議の開催では、自分ごと化会議における市民の意見も踏まえて、第2四半期中には少なくとも1回の庁内検討会議を行いたいと考えているというふうにしていますが、9月1日に予定されていた第2回目の自分ごと化会議が台風の影響により延期となりました。そのため、開催を待つことなく、9月27日に庁内の関係課で情報共有の会議を行いました。今度の日曜日、11月24日に、第2回目の自分ごと化会議がありますので、その後の庁内検討会議では、自分ごと化会議で出された意見を踏まえた内容にしていければというふうに考えています。

次に、竹野地域の交通再編に向けての意見交換会への参加では、竹野地域の各地域で行われている交通再編に向けての意見交換会へ同行し、直接市民の

意見等を聞き、今後の市民の移動の在り方について検討していく上での参考にすることとしています。

次に、高橋地区における住民の移動に関する取組の支援では、但東、高橋地区コミュニティは、将来にわたって通学などの移動に困らない地域であるために、自分たちにできることは何かについて検討を進められています。

コミュニティと市は、こうした検討の中で出された地域の思いやアイデアを基に、住民の移動を支える新たな仕組みづくりに取り組んでいます。

市としても、地域コミュニティ等が主体的に取り組む意向があり、地域の課題解決、実装に向けた機運が高まっている共助型交通の仕組みづくりと実証を支援していこうとしております。説明は以上です。

○委員長（石田 清） ありがとうございます。

久田課長。

○建設課長（久田 渉） 私のほうから、それでは、北近畿豊岡自動車道の事業推進ということで、4ページをご覧ください。

現況と課題、それから、基本方針についてです。当該道路は、1987年6月に路線指定され、本年2024年の9月23日には、豊岡出石インターまでが開通し、全体延長73キロのうち約68キロが供用されております。加えまして、2020年度には、最終区間となる豊岡道路第Ⅱ期区間が事業化されたことにより、全線事業化となりました。

今後も全線開通に向けた早期実現促進大会を継続開催するとともに、国や県などに当該道路の必要性をアピールすべく、要望活動を行ってまいります。

それから、次に、概要です。1つ目の但馬空港インターチェンジから豊岡出石インターチェンジ区間の豊岡道路につきましては、さきのとおり、9月23の開通により、交通渋滞が現在のところ、発生をしておりますが、現在、国、県、市において看板設置や信号機調整などにより、段階的な緩和策を講じているところです。

また、この開通式の1週間前、9月の16日には、開通記念イベントなどが開催され、出石豊岡のイン

ターチェンジをメイン会場として、約2,000人の方が参加をされております。当日は橋梁ウォーク、ウォークのイベントを中心に、飲食や物販、森林組合による木工体験など、14ブース、3台のキッチンカーに加え、国や県などの緊急車両等の展示も催される中、大変猛暑の中ではありましたが、参加者の方からは、なかなか高速道路を歩くという機会はないので、貴重な体験をしたというような意見も聞かれ、一定の開催効果はあったものと考えております。

それから、2つ目の豊岡出石インターチェンジから豊岡北ジャンクション・インターチェンジ、豊岡道路Ⅱ期につきましては、引き続きの用地買収に加え、工事用仮設道路などが発注される旨、伺っております。

その中で、用地買収の進捗状況について報告させていただきます。

現在、戸牧地区、岩井地区、宮井地区、栃江地区の用地交渉に向かっているところで、10月末現在の契約率は83.5%となっており、順調に推移をしております。

それから、3つ目の早期実現促進大会につきましては、今年度は8月3日に、例年どおり800人規模で開催をしております。国土交通省の道路局長様からも、これだけの規模の大会を30年以上継続開催しているというところは、全国的に少なく、すばらしい大会だというような発言もあり、最後は西村新温泉町長、頑張ろう三唱をもって盛大に幕を閉じたところです。

最後に、要望活動の件ですが、こちらにつきましても引き続き、国土交通省や財務省、近畿地方整備局へ、当該道路の必要性を強くアピールすべく、当初、10月の中旬を予定しておりましたが、選挙の関係もございまして、日程変更を余儀なくされております。現在、来年1月中旬をめどに日程調整を行っております。

それから、7ページです。山陰近畿自動車道の事業促進、現況と課題、基本方針についてです。

当該道路は、1994年12月に地域高規格道路

として路線指定を受けまして、兵庫県内では香住道路、東浜居組道路、余部道路、浜坂道路が開通し、県内延長51キロ中、約23キロが供用されております。

また、豊岡市域では、竹野道路が2021年に事業化され、現在、測量、調査、設計業務が進められています。加えて、城崎道路は2023年度に国の直轄権限代行にて新規事業化されたところです。こちらにつきましても、北近畿豊岡自動車道同様に、今後も全線開通に向けた早期実現促進大会を継続開催するとともに、国や県などに当該道路の必要性をアピールすべく、要望活動を行い、より一層の積極的な活動を展開したいと考えております。

次に、概要についてです。1つ目の浜坂道路Ⅱ期につきましては、トンネル工事、それから、橋梁上下部工の工事を行っております。2つ目の竹野道路では、調査、設計、用地買収の準備を行っております。3つ目の城崎道路では、調査設計を行っております。

また、1枚めくっていただきまして、8ページの5つ目の早期実現促進大会、6つ目の要望活動につきましては、北近畿豊岡自動車道同様なので、省略させていただきます。

最後に、7つ目、その他、山陰近畿自動車道整備推進決起大会につきましては、兵庫県と鳥取県、京都府の3府県が東京で毎年11月に開催しておりますが、今年度は、先ほど言いました選挙の関係で、来年1月21日に開催予定となっており、本市も参加予定としております。

いずれにしましても、北近畿豊岡自動車道の残りの区間もさることながら、山陰近畿自動車道につきましても、県施工の竹野道路、国の直轄代行による城崎道路両輪で強力に事業推進することにより、早期完成できるよう、本市としましても用地取得に係るような事務などがございましたら、市として積極的に協力できる部分があれば全力で取り組んでまいります。説明は以上です。

○委員長（石田 清） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 都市整備課からは3

件、事務概要を説明させていただきます。

9ページをご覧ください。空港の利用促進と利便性の向上についてです。

まず、現況と課題、それから、基本方針です。コウノトリ但馬空港は、1994年の開港以来、豊岡市をはじめ但馬地域の活性化に大きく寄与しており、5月18日に開港30周年を迎えました。2023年度の利用者数は、昨年度と比較して9,116人増の3万8,732人となり、利用者数はコロナ禍前と同程度の水準にまで回復してきています。

また、東京乗り継ぎ利用者数につきましては、1万4,702人となり、1994年の開港以来、過去最高を記録しました。今年度も引き続き、利用拡大を図りつつ、但馬と首都圏を結ぶ東京直行便の開設に向けた取組と但馬－伊丹線の年間目標利用率を70%とするプロジェクト、ターゲット70を継続して、積極的に取り組むこととしています。

次に、概要及び進捗状況です。まず、大項目1つ目の運賃助成や小学校社会見学事業による利用の促進です。

9月30日現在で、航空運賃助成事業につきましては4,401件、小学生飛行機体験搭乗事業は15件、小学校社会見学事業は4校123件、2023年度中学・高校・大学無料キャンペーン110件など、合計で4,653件の利用件数となっております。

次に、大項目2つ目の但馬空港開港30周年記念事業や大阪・関西万博に向けた取組の実施についてです。

まず、(1)30周年記念事業小・中・高・大学無料キャンペーンの利用件数は390件となっております。

(2)、(3)につきましては、但馬空港開港30周年記念ロゴを作成するとともに、30周年記念タペストリーの制作と空港への掲示を5月16日から実施しております。

(4)ひょうごフィールドパビリオン体験ツアーにつきましては、8月19日、8月20日、8月26日に実施し、伊丹市の小学生及び同伴者31名に

参加していただいております。

次に、大項目3つ目の関係機関・団体と連携した東京直行便開設へ向けた取組の実施につきましては、7月5日に鹿児島県のJAC及び東京都のJALへの要望会を実施しております。

次に、大項目4つ目の他団体や航空会社と連携したPR活動、利用促進策の実施についてです。

(1)JALコウノトリフォトコンテストにつきましては、全国から143件の応募があり、表彰式につきましては、10月19日に開催の空の日スペシャルイベントに合わせて実施しております。

(2)JALサマーキャンプの誘致につきましては、7月29日から8月2日の期間で、株式会社類設計室が運営するフリースクールや塾などに在籍する8名の生徒に参加していただいております。

(3)JALホームページに掲載のJALが提案する観光ガイド「On Trip JAL」で豊岡市を紹介していただいております。

次に、(4)あべのハルカスで実施されたひょうご豊岡フェアにおいて、コウノトリ但馬空港のPRを実施するとともに、NPO法人但馬国出石観光協会との協働により、但馬路線利用者への出石皿そば巡り割引クーポンを配布しております。

次に、10ページをご覧ください。バス交通の充実と利用促進についてです。

現況と課題、基本方針です。地域公共交通の基盤であるバス交通については、自家用車の普及や域内人口の減少による利用者数の減少、加えて深刻なドライバー不足により大変厳しい運営状況にあります。今年度も継続して、国、県と協調し、運行に係る経費の補助を行い、主要バス路線の維持確保に努めたいと考えております。

また、路線代替交通として運行しています市営バス「イナカー」については、6路線で継続運行を行い、沿線住民の外出を支援したいと考えております。

地域主体交通チクタクについても、今年度も引き続き出石、但東の4つの地域で継続運行し、交通弱者の日常生活を支えたいと考えております。

今後も引き続き、地域の実情に応じた新たな交通

モードの検討を進め、持続可能なバス交通ネットワークの構築を目指すこととしております。

次に、概要及び進捗状況です。

まず、大項目1つ目、主要バス路線の維持を図るため、国、県と協調した運行補助等を実施につきましては、例年のことではありますが、国、県と協調し、運行に係る経費の補助を行い、主要バス路線の維持確保に努めていきます。

大項目2つ目、地域の実情に応じた交通体系とネットワークの構築についてです。

(1)の竹野地域交通再編に向けた意見交換会等の開催については、竹野地域交通再編に向けた意見交換会を区長会及びコミュニティの役員を対象に、4月から5月にかけて実施し、6月24日に開催した竹野地区、中竹野地区、竹野南地区の3地区合同の意見交換会で、竹野地域交通再編に向けた準備会を発足し、月に1回程度、準備会を開催し、協議、検討を進めています。

次に、最下段から11ページをご覧ください。

(2)竹野南地区新交通モード実証運行の実施につきましては、昨年度に引き続き、竹野南地区の乗合運送サービス、のりあいみ・な・みの実証運行业務を実施しています。

次に、(3)高橋地区通学おでかけ支援施策検討会への参画についてです。こちらは、地域ができる通学、お出かけ施策を考える但東・高橋地区コミュニティ開催の検討会に参画しているものです。

大項目3つ目、市街地循環バスコバス、市営バス「イナカー」、地域主体交通チクタクの適切な運行及び運行支援については、記載のとおりです。

次に、大項目4つ目の運行事業者、地域と協働したモビリティマネジメント及びバス利用の機運醸成を図るイベントなどの実施です。

まず、(1)市職員の市内移動及び但馬管内等への出張に係る公共交通利用については、延べ162人の利用がありました。

次に、(2)豊岡ノーマイカーデーの実施についてです。販売枚数は第2水曜日で481枚、第4金曜日で383枚、計864枚となっております。今

後も引き続き、幅広く周知していきたいと考えております。

次の(3)高校生通学バス定期券購入補助事業は、市内在住の高校生を養育する保護者に対し、通学バス定期券購入費の一部を補助するもので、申請手続のオンライン化を7月から開始しています。

次の(4)トライやる・ウィークにおけるバス利用については、路線バスで61人、市営バス「イナカー」で8人の計69人に利用していただいております。

次に、12ページをご覧ください。鉄道交通の利用促進についてです。

まず、現況と課題、基本方針です。通勤、通学、通院など、市民の日常生活など、交流人口の拡大や災害時のリダンダンシー機能の確保という観点から、鉄道交通は必要不可欠な重要な社会基盤であると考えています。

しかしながら、自家用車の普及や沿線人口の減少により、利用者は年々減少傾向にあり、鉄道交通を取り巻く環境は厳しさを増しています。このような状況の中、JR西日本は、大量輸送機関として、鉄道の特性を発揮できていないとする線区の輸送密度と経営状況を公表し、最適な地域交通体系を共に作り上げていく必要があるとの課題を提起し、県と沿線自治体は路線ごとに現状と課題を踏まえた利用促進策の方向性を取りまとめ、関係者がそれぞれの立場で利用促進策に取り組んでいます。

また、京都丹後鉄道では、維持活性化を推進するため、2015年4月から運行部門と施設部門を異なる主体が担う上下分離方式が導入され、沿線府県市町が連携し、持続可能な運営に努めています。

なお、上下分離方式による現契約が2024年度末に満了を迎えるに当たり、今年度中に延長契約を締結することとしています。

引き続き沿線自治体と連携し、利用者の利便性向上対策と運行事業者への支援を行うこととしています。

次に、概要及び進捗状況です。

大項目1つ目、JR山陰本線の維持存続に向けた

取組の実施です。

(1) 維持存続に向けた機運醸成と利用促進策の実施についてです。

まず、アの乗って守ろう！竹野駅ペイの実施です。こちらは、昨年度開催されたＪＲ山陰本線利用促進策創出ワークショップで発案された取組で、昨年度に引き続き実施しています。９月末の発行枚数は２万４，４０５枚、利用枚数は１万４，９４４枚となっております。

次のイです。１２ページ下段から１３ページをご覧ください。「『駅メモ！＆アワメモ！』で行こう！兵庫県但馬キャンペーンひょうこと巡る山陰線・播但線の旅」キャンペーンの実施につきましては、記載のとおりです。

次のウ、トライやる・ウィークにおける鉄道利用については、２４人の利用がありました。

次のエにつきましては、例年のことではありますが、竹野駅乗車券類等簡易委託販売業務を一般社団法人たけの観光協会に委託しております。

次のオ、協議会等での協議の状況については記載のとおりです。

次の(2) 要望活動の実施につきましても記載のとおりです。

続きまして、大項目２つ目の京都丹後鉄道の運行支援です。

(1) 沿線自治体と連携した利用促進策の実施につきましては、沿線自治体及び関係団体等で組織する京都丹後鉄道利用促進協議会事業として、利用啓発等の取組を実施しています。

(2) 施設整備、運営に係る支援につきましては、これまでより補助率の有利な社会資本整備総合交付金を活用して支援を行っています。

(3) 会議等については、１３ページ下段から１４ページに記載のとおりです。

都市整備課からの説明は以上です。

○委員長(石田 清) 以上で説明は終わりました。

意見、質疑等はありませんか。ないですか。

では、すみません、１つだけ。新しく市民の移動の在り方検討ということで、去年は事務概要の中で

説明がなかったというか、出てきたんですけども、具体的に何か目標としてるようなこと、ありますでしょうか。ここはもう検討する、検討するってなってるんですけども、意見を聞きましょうとなってるんですけど、具体的な検討事項が出てきているというようなことがありますかということです。

谷口室長。

○市長公室長(谷口 雄彦) 自分ごと化会議でも意見として出ていましたし、その担当者会議でも意見は出てるんですけども、これまではサービス対象に合わせて、それぞれ別々のモードで福祉は福祉、教育は教育というようなことで、別々のモードで輸送してたんですけども、それがなかなか厳しいだろうというようなところで、やっぱりそういった移動需要を併せていったようなものを運べるような仕組みづくりというのを、検討する必要があるんじゃないかといったことを話しているところです。

○委員長(石田 清) ありがとうございます。

はい、どうぞ。

○委員(福田 嗣久) 真狩課長のほうから、最初にありました、高橋地区における住民の移動に関する取組支援ということで説明いただきまして、コミュニティのほうから少し聞いてるんですけども、具体的にはどれ、どういう形で進んでるか、ちょっと説明をいただけますか。

○委員長(石田 清) はい、どうぞ。

○経営企画課長(真狩 直哉) 高橋地区におかれましては、通学おでかけ支援施策検討会というのを組織されて、今、移動に関する現状と課題というのを話し合いをされました。その中で、例えば高齢者の移動でしたら、誰か、その地区の中といいますか集落の中で、私はどこどこに移動するから乗っていくかというような声かけの仕組みというか、一緒に乗っていったりとか、また、高校生とかでしたら、誰々さんが行くっていう時間にＬＩＮＥとかを例えば使って、うまくマッチングできるような仕組みができないとか、そういったような話し合いをされました。

そういった取組というのが、地区のほうから上が

ってきましたので、市としてもそういった取組で、どこか事例がないかなとか、こういうふうにやったらできないかなというような事例を探したりして、実際に高橋地区のほうにも、こういったものがあるけど、どうでしょうかというような仕組みを紹介したりするなどして、現に、実際には11月の下旬からになるかと思いますが、試しにやってみるというような期間を設けて、今、動いているところです。以上です。

○委員長（石田 清） どうぞ。

○委員（福田 嗣久） そういう動きの中というか、検討の中で、具体的にどういうスケジューリングでこういうことをしようか、どうしていこうとしておられますか。来年の例えば何月からこういうふうにしようとか。

○委員長（石田 清） 真狩課長。

○経営企画課長（真狩 直哉） 確定的なものというのはちょっとまだないんですけど、先ほど言いました11月の下旬あたりから実証実験をしまして、それが2か月ないしは3か月ぐらい、最長でも3か月ぐらいになるかと思いますが、実証をして、この今やろうとしている仕組みというのが、その地域に合ったものかどうかとか、実際、これが持続的なものであるかどうかとかというようなものを、あと、当然、そういう仕組みをしようとすると費用というものがかかってきますので、それも持続的にいけるかどうかとかというようなものを検証して、その検証するという期間をある程度設けて、そして、例えばやってる実証の内容を一部変えたりというようなことはあるかもしれないけど、この内容をベースにいきましようとか、いや、また、違う仕組みのほうがいいんじゃないかとかというようなものを、また、考えていこうというような仕組みでやっています。

○委員長（石田 清） はい。

○委員（福田 嗣久） そういう相談はされてるんでしょうけれども、1つ、どういうんですか、課長のほうや堂垣課長のほうもあれですけども、高橋地区でも10年からなるんだけれども、農作業応援

者というのがスタートしておってね。10年か12年かちょっと忘れちゃったけれども、今現在、20人ほどが加盟されて団体を、任意の団体ですけど、つくっておられます。一番最初は、今申し上げたように、農作業の応援者で、例えば土手の刈り払いを1日受けるとかいうようなことをされてきて、墓掃除もする、それから、家の片づけも手伝ってあげる、そういう団体をつくってこられて、だんだん活動の範囲を広げてこられてるんですけども、年寄りさんが多いんでね、どちらにしてもなかなか難しい面もあるんですけど、その今のその活動の中でプラスして、もう何年なるかちょっと忘れてしまったんだけど、もう七、八年前から行け行けてやってるんですけども、具体的にはもうそういう活動も、これと似たようなもんだけど、別グループでされてて、コミュニティのほうがなかなか進まなかったんで、もう先にやとられるんですけども、そういう事例もあるんで、この辺のを上手にプッシュしながら、それでも団体ごとにわっと広がってもいいやないんでね。非常にシビアな問題もあるし、交通事故いう難しい面もありますけれども、それでも地区の人は、本当に移動手段がない人については大変助かっておられるのも事実だし、実態として、どういう動きをされてるかといえば、今、既存の動かれてるところからすれば、福知山市民病院に行くのが一番多いんですわ。高橋地区のあたりから福知山市民病院に行つて、もう要するに連れていって受付もして帰るまで待ってとってあげるという形で、福知山市民病院が一番。それから、福知山市内の歯科診療所もあるし、それから、出合の振興局あるいは診療所もあるし、それから、出石もあるしということで、ずっと広がってきてられるんですけども、そういった活動と非常に似てるんですけど、市のほうも長いお経を読んどってもしゃあないんで、上手にプッシュしたり、リードしたり、安全面の注意なんかも十分配慮してもらわあかんし、その辺ももう動いてるとこもあるんで、それは但東でいえば、合橋のこのお助けのこの活動もそうですけれども、資母でもやってるんですけどね、いろんなことがもう水面下で動いてる

んで、その辺をトータル的に考えることは難しいかも分かりませんが、上手にそれでもリードもしていただかなあかんし、資母側では丹後まで連れていく、お買物ツアーで、それもやってますし、合橋では出石方面に連れていくというのも結構やっつけられますし、そういうことで、結構というのが、件数は少ないと思いますけれども、そういう活動も既に入ってますので、それがあまり統制の取れないことやいろんな事故につながることはよくないと思うんで、ただ、お経読んでおってもなかなか人の生活はプラスになりませんので、その辺のことは十分に、そちらが、こちらもそうだけど、留意していただいて、応援しながらリードしていただきたいなと思ってはおりますので、総括として、何か意見がございましたら、はい、どうぞ。

○市長公室長（谷口 雄彦） 今、知ったような情報もありますので、ちょっと整理が必要だと思うんですけど。

○委員（福田 嗣久） あなたは。

○市長公室長（谷口 雄彦） ああ、市長公室、谷口です。しっかり仕組み化してあげることが必要だと思うんです。そういったことを市が支援をしていくというか、導いていくとかいうようなことがいいんじゃないかなというふうに思います。

高橋につきましては、今、我々が支援してる動きと既にある動きが混在すると、利用者も分かりにくくなるような心配も少しあるのかなと思ってんですけど、ちょっとその辺は情報を収集して、どういうふうに整理をしていくかっていうのを今後の課題にさせてください。

○委員（福田 嗣久） そうですね。

○委員長（石田 清） ありがとうございます。

そのほか。

米田委員。

○委員（米田 達也） 先ほど堂垣課長からありました、12ページの最下段、『駅メモ！&アワメモ！』で行こう！っていうキャンペーンの実施と説明あったかと思うんですけど、これ、豊岡市が主体となって、このキャンペーンというかひょうこと巡る山

陰線・播但線の旅というのをされるというふうに、この文章から見ると、説明から見ると取れるんですけど、主体はどこがされるんですか。例えばJ Rがそういうキャンペーンを打つので、豊岡市として、説明あります、イデとかウのところに協賛というか参画させてもらうという意味合いなのか、これだとキャンペーン自体は豊岡市がやるのか、やるというふうに取れるのかなと思うんで、ちょっと確認を。

○委員長（石田 清） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 豊岡市が主体ということではなくて、利用促進の協議会というのがありまして、そちらのほうでやってて、そこに参加するという、そういった仕組みです。

○委員（米田 達也） 分かりました。

○委員長（石田 清） そのほか、ございませんか。
はい、どうぞ。

○委員（福田 嗣久） もう一つ、よろしいですか。

先ほどの堂垣課長の説明の中で、ちょっと私もこの委員会から離れてましたけども、東京直行便の要望のことをおっしゃいましたけれども、エアコミューターとJALの本体ですか。どんなふうな雰囲気ですか。直行便についてのJALとか国交省が当然あれですけども、どんなふうな様子ですか、具体的に要望会をされて。

○委員長（石田 清） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 具体的に、その直行便に関して、どういったらいいんですかね、できる、できないとかという、そういう回答のところまではいってなくて、搭乗率をまず上げることが第一でして、その次に直行便ということが見えてくるのかなという、そういった現状です。

○委員長（石田 清） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） なかなか難しい課題だと思いますけれども、それともう一つは、国交省のほうの何とか枠ちゅうのがあったと思うんですけども、羽田空港側の、その辺の状況はいかがなんでしょうか。何とか枠、何枠いったかな。（「発着枠」と呼ぶ者あり）はいはい、発着枠の中で、そのローカルの枠を受け入れるという話があったやに記憶してます

けれども、その辺の国交省自体の動き自体は。

○委員長（石田 清） 堂垣課長。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） 具体的に、国交省とその枠の話までいってるような状況ではまだないです。

○委員長（石田 清） よろしいですか。

○委員（福田 嗣久） はい、分かりました。

○委員長（石田 清） そのほかございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石田 清） それでは、これでないようですので、以上で委員会所管事項の事務概要については終わります。

この際、当局から何か発言はありませんでしょうか。ありませんか。

ないようですので、当局の職員の方は退席をしていただいて結構です。ご苦労さまでした。

切りのいいところで暫時休憩と言いたいところでもありますけども、このまま続行させていただいて結構でしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

委員会の運営方針についてのことであります。

委員会としては、調査内容を絞り、より効果的、効率的な成果を上げるために重点調査事項を決めて、それに沿って進めていきたいと考えています。

前回までの委員会で決定しました委員会重点調査事項を、Side Booksの本日のフォルダーの中の資料等の4ページ、資料の4ページに配信しておりますが、改めて、今期の委員会重点調査事項（案）について、協議をお願いいたします。

この件について、ご意見等はありませんか。

はい。

○委員（西田 真） このままで結構だと思いますので、継続したらいいと思います。以上です。

○委員長（石田 清） はい、どうぞ。

○委員（森垣 康平） バスとか自家用車に関わることなんですけど、今後、多分、自動運転というのがこれに大きく左右してくるようなことだと思うので、ちょっと自動運転のいろいろと取組のことがあるので、そういったようなことも調査対象として含

めてもいいのかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（石田 清） 皆さん、どうですか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員（福田 嗣久） いいと思いますけどね。この5番について。

○委員長（石田 清） 先ほどの市長公室からも何かあやふやな話がたくさんあったんですけども、そこも自家用有償旅客運送等としてあるんで、このままかなと思って見たりはしたんですけどね。

○委員（西田 真） それはそれでいいと思いますけどね。

○委員（森垣 康平） でも、自動運転というののもちよっとね。

○委員（浅田 徹） 何かちょっと違うのかな。

○委員（福田 嗣久） 自動運転で入れといて。5番目でええな。5番目に項目立てて。

○委員長（石田 清） 5番目に、そしたら項目立てて入れる、項目をつくって。

○委員（西田 真） そうそう、それでいいと思います。

○委員（浅田 徹） まあシステムの話だな。

○委員（西田 真） そうですね。

○委員長（石田 清） 了解しました。

それじゃあ、その整理につきましては、こちらに一任、正副委員長に一任させていただきたいと思います。

では、5番目に1項目として、自動運転技術の導入についてを入れるという形で、文面については正副委員長のほうに一任させていただくということでよろしいかな。

それでは、そのようにさせていただきます。

また、次回の委員会で特に調査を進めていきたい項目というようなことがありましたら、この際、ご協議願いたいと思うんですが。

それでは、それについても正副委員長に一任ということで。

はい。

○委員（浅田 徹） よろしいか。特に高橋地区が

やっておられるような、私の知人もそのお世話になってまして、ただ、その集落ごとに向こう3軒両隣で、よく知ってるおばちゃんとか、そういう人をちょっと乗せてあげるわというようなことで、補償とか、もしも事故ったときですね、多分、その方は何も本当に好意でされてるといようなこと。今、話を聞いてますと、何ら実証についてという、今、状況を調べてますというふうなことで、せっかくそういう互助の助け合いみたいなことが、あんまり行政が入るとどうかなというふうなことがあるんですけども、でも、大事なことですよ、そういうの。事故ったら好意が本当に、双方が加害者、被害者になりますので、ちょっとその辺を少しもっと状況を、現状をもう少し深めるといいですか、今の現状をね。その辺をまた、行政のほうから状況として、もうちょっと深めてほしいというのがあります。

○委員長（石田 清） 了解しました。

その他につきましては、今、浅田委員からありましたことについては、ちょっと頭の中に入れて、資料整理をさせていただきたいというふうに思います。

あとはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石田 清） それでは、正副でその点も含めて整理させていただきます。

その次ですが、委員会の席次についてです。本日は、会派構成に配慮した形で着席いただいておりますが、ご意見があればお聞かせください。

○委員（西田 真） このままで結構だと思います。

○委員長（石田 清） ああ、そうですか。特に意見が、それでは、これでいいということですので、そういう今の形で決定させていただきます。

この際、何か発言はありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（石田 清） ないようですので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前10時10分閉会
